

鳥取県立美術館整備基本計画（中間まとめ案）パブリックコメントの実施結果について

博 物 館

1 意見募集の方法

- (1) 募集期間 平成30年2月23日（金）から3月13日（火）まで
- (2) 閲覧方法 県関係7庁舎（県民課、総合事務所、図書館）及び19市町村に配架、とりねっとへの掲載、県内美術系文化施設に配架、県内の文化団体等への郵送
- (3) 募集方法 郵送、ファクシミリ、電子メール又は県庁県民課、総合事務所等設置の意見箱
- (4) 新聞広告 3月3日（土）日本海新聞に掲載

2 応募結果 意見総数 101件（34名）

3 主な意見と対応方針 ※一つ意見で複数項目にまたがっている場合もあり、合計が101件を超える。

項目	主な意見	対応方針
第2章 目的・コンセプト 6件	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として盛り込みすぎのきらいはあるものの、「つくる」という未来志向のコンセプト、ラーニングセンターの位置づけ、サードプレイスの考え方、美術館サポーターの仕組みづくり等が評価できる。 ・ありきたりで当り障りのない印象。そつなくまとまっている。 ・ローカルを前面に出した企画運営を望む。 ・県立の美術館が中部の町おこしにつなげることに違和感がある。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設である県立美術館は、子どもたちの創造性を育み県民の生涯学習を支援する教育機関であり、収集作品を守り調査研究を行い次世代に伝える研究機関であるとともに、県ゆかりや国内外の優れた作品の展示、県内創作者等の発表の機会としての展示施設であることが求められている。 ・また、美術館には多様な役割があり、関係する地域、鳥取県全域を視野に入れながら、アートによって文化性の高い賑わいのある地域づくりに貢献していくことは必要不可欠であると考えます。
第3章 必要な機能と主な事業展開 38件	<p>〈収蔵、展示〉（24件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国宝、重要文化財級の美術品の収蔵。 ・鳥取生まれの作家のコーナー設置。 ・郷土作家の常設展中心でなく、企画展中心にしてほしい。 ・企画展は、利用者目線で集客が期待できるよう、民間企業に任せてはどうか。 ・企画展開催中、親子で楽しめる日を設けては。 ・幼稚園児から大人までの作品展の開催。 ・音声ガイドなど作品解説サービス。 ・収集作品やコミッションワーク、展示内容の具体的名前を挙げての提案。 ・まんがは県立美術館でやらなくてよい。 等 <p>〈教育普及〉（8件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適時、ワークショップの開催が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集方針を見直し、より広範囲の優れた美術作品を収集する。 ・県立美術館は県ゆかりの優れた美術作品を中心として収集・保管しながらより多くの方々へ鑑賞していただくなど様々な機能を発揮し次世代に継承してことと併せて、県民ギャラリーやスタジオ等を設け、県民による創作活動の発表機会の場とすることも重要な役割と考える。併せて、鳥取にいながら時代の潮流や美術の動向に即した国内外の名画・名品を鑑賞できる魅力的な大型展覧会を様々な主体と協働して開催していく。 ・作品の展示や解説にICT設備を活用し、学芸員によるギャラリートークも充実させる。 ・「まんが王国とっとり」は国内外に大きな情報発信力を持つ本県固有のポップカルチャー資源であり、県内の関係施設と連携を図りながら事業展開することで「つくる美術館」としての機能を最大限に発揮していくものと考えます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童による作品のスケッチを認めてはどうか。 ・幼稚園や保育園児も全員招待してはどうか。 ・ラーニングセンター機能に大学生のインターン制度の文言を加えてはどうか。 ・美術ラーニングセンターは教育センターとどう違うのか。等 	<p>もが美術と接することができる様々な機会を創出していくこととしており、展示室でのスケッチ等の実施も含めて具体化の検討を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術ラーニングセンター機能は、子どもたちの美術を通じた学びを学校教育と連携して行い、想像力や創造性を育むための支援を行うもので、美術館での対話型鑑賞をはじめとして様々なツールを活用した取組みを行うものであり、教育センターが担う役割とは異なるものと考えている。
	<p>〈地域・県民等との連携・協力〉（５件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館ファンクラブをつくり、展示・研究・情報に力を貸してもらってはどうか。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館を支える方々とのネットワークづくりを行っていく。 ・県中部では、官民４９団体で組織される応援団的な組織が発足するなどの例もあり、県民一人ひとりに積極的に参画・関与していただきたい。
	<p>〈付帯的な機能〉（１件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作家のグッズを販売してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者の幅広い楽しみのため、ミュージアムショップを設置することとしている。
<p>第４章 施設整備 計画 ４５件</p>	<p>〈施設整備の方針、諸室の整備〉（２６件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外からの集客には、建物や周辺に特色が必要。 ・建物だけで集客できないので、平凡なコスト安のものにすべき。 ・小規模でありお金をかけない美術館にしてほしい。 ・基本構想から、諸室の面積がなぜ縮小されたのか、説明してほしい。 ・収蔵スペースをしっかりと確保すべき。 ・ボランティア活動室を設けてほしい。 ・お茶を飲んだりグループでディスカッションできるスペースを設けてほしい。 ・生け花専用の部屋、作家の滞在スペース、キッチン等を設けて欲しい。 ・乳幼児連れでも訪れやすい設備を求める。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・効率性の追求とあわせ、鳥取県の文化の創造・発展と創生のシンボルとして建物のデザイン性にも配慮して整備する。 ・美術館の機能を確保しつつ無駄の無い利用となるよう諸室の規模等を検討しており、基本計画では、隣接する倉吉未来中心や倉吉市立図書館等との連携等も勘案した。 ・レストラン・カフェや無料スペースを設け、美術鑑賞だけでなく、居心地の良さを感じながら幅広い楽しみを享受できる美術館とする。 ・周辺施設や地域等との連携により様々な人が訪れ、楽しみ、交流する拠点となるよう、建築設計を進める中で引き続き検討する。
	<p>〈敷地利用計画等〉（８件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉吉市立図書館や倉吉未来中心とのタイアップによる集客。 ・駅からのバスの利便性向上を望む。 ・十分な駐車場を確保してほしい。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉パークスクエアとの相互の利便性や全体で一体となったイベント開催等ができるよう配慮する。大御堂廃寺跡の広々とした空間とも連携し、どの方向からも立ち寄りやすいオープンな施設とする。 ・バスの利便性も含め、交通アクセスの改善については、記述している。 ・駐車場の整備については、来館者数の予測を踏まえ、隣接施設の駐車場との協力・連携を図ることとしており、今後、建築設計を進める中で引き続き検討する。

	<p>〈整備費用〉（11件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス向上とコスト削減が期待できる民間活力導入に賛成。 ・企画展は、利用者目線で集客できるよう、民間企業に任せてはどうか。（再掲） ・コスト削減のためにPFIを導入し、平凡な美術館ができてしまうことは望まない。 ・小学生全員招待など、維持管理運営のための予算確保を望む。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい財政状況の中で整備を進めるにあたって、PFI手法導入の可能性等も検討し効率的な整備・運営を図る。 ・県全体の公共建築の指針を踏まえて検討していくことであり、具体的な整備手法については、今後検討していく。
<p>第5章 計画実現 に向けて 26件</p>	<p>〈組織体制：職員等スタッフ〉（7件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客実績のある館長や学芸員を外部から招聘してはどうか。 ・高い専門能力とともに、県民に開かれたマインドを持って欲しい。 ・学芸員の研修や研究の十分な態勢が必要 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・館長等の人選については、今後の検討である ・県民参画の「ワークショップづくり隊」との企画立案・実施や、県民の所蔵作品を協働して調査研究を行い成果を後世に伝えるなど、県民の方とともに身近に感じられる美術館づくりを行っていく。
	<p>〈組織体制：美術館を支える方々とのネットワーク〉（6件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館ファンクラブをつくり、展示・研究・情報に力を貸してもらってはどうか。（再掲） ・個人や会社からサポーターを募集してはどうか。 ・寄付を募ってはどうか、美術館に愛着がわくのでは。 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館を支える方々とのネットワークづくり行っていく。（再掲） ・県中部では、官民49団体で組織される応援団的な組織が発足するなどの例もあり、県民一人ひとりに積極的に参画・関与していただきたい。（再掲）
	<p>〈利用促進策〉（4件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の中、達成できる目標利用者数か。 ・都会のように混み合わずに、自分のペースで鑑賞できることは美術館の魅力。 ・倉吉市立図書館、倉吉未来中心とのタイアップによる集客。（再掲） ・外国人観光客の集客には、県外との連携も重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間利用者数は、これまでの県立博物館の実績や立地場所を踏まえて見込んだもの。 ・倉吉パークスクエア施設と連携視した賑わい創出、一体的利用を考慮した開館日時の設定等を検討する。 ・ご意見を反映し、県外美術館等との連携も図ることとし明記する。
	<p>〈今後のスケジュール〉（9件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の人、文化団体に限定せず、広く県民から意見集約することが大切。 ・進捗状況が目に見えることが大切。 ・県外、海外への広報発信の文言を加えては。 ・開館時期を前倒してほしい。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのオープンな美術館づくりを継続し、今後もホームページやワークショップなどを通じてオープンにしていく。 ・今後のスケジュール等についても広報をしっかり行う。 ・県外、海外への広報も行うこととしているが、ご意見のとおり明記する。 ・現時点で求められる県立美術館の整備を行うとすれば、開館の前倒しは困難である。
<p>その他 2件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・募集しているテーマでない意見 	